各　位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2023年9月分)

ご協力ありがとうございました。2023年9月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 143社　回答 139社　回答率 97.2%

	前月比						前年同月比					
調査項目	10%以上増加・上昇・好況	やや増加・上昇・好況	横這い・平常	やや減少・下降・不況	10%以上減少・下降・不況	計	10%以上増加・上昇・好況	やや増加・上昇・好況	横這い・平常	やや減少・下降・不況	10%以上減少・下降・不況	計
売上数量	28社 20.1% (3.6)	30社 21.6% (10.8)	55社 39.6% (30.9)	17社 12.2% (30.9)	9社 6.5% (23.7)	139社	10社 7.3% (11.6)	24社 17.5% (15.9)	43社 31.4% (26.1)	34社 24.8% (25.4)	26社 19.0% (21.0)	137社
売上高	27社 19.4% (5.0)	28社 20.1% (9.4)	57社 41.0% (28.8)	19社 13.7% (31.7)	8社 5.8% (25.2)	139社	12社 8.8% (15.2)	27社 19.7% (15.2)	38社 27.7% (26.1)	38社 27.7% (26.1)	22社 16.1% (17.4)	137社
在庫数量	4社 3.0% (1.5)	21社 15.9% (9.1)	75社 56.8% (65.9)	32社 24.2% (18.9)	0社 0.0% (4.5)	132社	12社 9.2% (7.6)	15社 11.5% (11.5)	63社 48.5% (42.7)	25社 19.2% (22.9)	15社 11.5% (15.3)	130社
販売単価	3社 2.2% (1.5)	6社 4.3% (2.2)	103社 74.1% (73.0)	27社 19.4% (21.9)	0社 0.0% (1.5)	139社	13社 9.4% (11.0)	28社 20.3% (25.0)	60社 43.5% (39.7)	32社 23.2% (18.4)	5社 3.6% (5.9)	138社
収益状況(粗利)	12社 8.7% (2.9)	24社 17.4% (8.0)	67社 48.6% (43.8)	26社 18.8% (31.4)	9社 6.5% (13.9)	138社	8社 5.8% (5.9)	16社 11.7% (13.2)	45社 32.8% (31.6)	35社 25.5% (25.7)	33社 24.1% (23.5)	137社
稼働率(生産・加工設備)	11社 9.1% (1.7)	26社 21.5% (9.3)	63社 52.1% (43.2)	17社 14.0% (33.9)	4社 3.3% (11.9)	121社	1社 0.8% (6.0)	22社 18.3% (12.0)	50社 41.7% (40.2)	36社 30.0% (29.1)	11社 9.2% (12.8)	120社
入出庫のトラック台数	10社 7.5% (1.5)	29社 21.6% (7.7)	75社 56.0% (46.9)	17社 12.7% (30.0)	3社 2.2% (13.8)	134社	3社 2.3% (6.2)	22社 16.7% (11.6)	61社 46.2% (44.2)	32社 24.2% (24.8)	14社 10.6% (13.2)	132社
	現在の景況感						3ヶ月後の景況予測					
	1社 0.8% (0.0)	5社 3.8% (5.3)	64社 48.9% (45.1)	42社 32.1% (33.1)	19社 14.5% (16.5)	131社	0社 0.0% (0.0)	20社 15.7% (18.2)	91社 71.7% (65.9)	14社 11.0% (13.6)	2社 1.6% (2.3)	127社
特記事項												

注　①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②(　)内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください

事務局　TEL：047-350-5311　FAX：047-350-5316

景況実感調査(2023 年 9 月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

① 9 月は前月比増。前年同月比減と低位で推移している。サプライヤーの天災影響や人手不足で作りたくても作れない状況は、半導体不足が解消されてからも継続中。今後さらに減少する労働人口を考えると国内製造業の増産は考えづらいと思われる。

② 8 月の販売はお盆休みもあり今年に入って最低だったが、9 月は 7 月に戻った感じで 8 月よりは多少良くなったが、低位安定に変わりなし。年度内はこの状況が変わりそうにない。(見積り依頼が少ない)

③ トヨタ中心に自動車が動いている。在庫も減って全体のバランスが今後とれて来ると思われる。順調に推移すればタイト感も出て来て、相場も値戻しの展開も予想できる。設備関連などで需要の広がりも出て来ると良いのだが。

④ 荷動きに変化はなく、上がる様子は感じるものの数字はついて来ていない。タイト感も薄く、在庫整理に忙しい状況。

中板

① 中板の実需は精彩を欠いており、単価の下落が激しい。客先は先安を見越して当用買いに徹しており、荷動きは低調。輸入材が多く出回っており、単価は今後も値下げ基調のままだろう。

厚板

① スポットの仕事については、引合いを含めて相変わらず低調である。予定が出ている物件についても発注時期の遅れが目立つ。遅れている物件の早期発注に期待している。

② ＜全体感＞厚板を扱う各分野においては、前月と状況は変わらず総じて低調。市中の厚板在庫は 11 カ月連続で減少しており、在庫の過剰感は薄れたものの、需要が無いことから在庫を補充するような動きは見受けられない。＜分野別＞これまで堅調といわれていた建機分野にも次第に陰りが見え始めており、下期以降は中小型のコンストラクション系で計画を下方修正する動きが拡大している。産機分野では、工作機械受注額が 8 ヵ月連続で前年割れしており先々の不透明感が一層増している。店売り分野では、首都圏大型物件が人手問題で工期が遅れているような状況で、中小建築物件は全く活気が無い状態が続いており、秋需も期待薄。

③ 建設機械は好調を維持していたが、機種によっては減産の予測も出始めている。店売り関連は人手不足等の影響で案件の延期、中止等もあり売上も減少している。

一般形鋼・H形鋼

① 7、8月とほぼ横ばいの売上高が、9月には減少に転じた。通常なら9月に増加するのだが、9月中旬以降は無風状態だった。この荷動きが10、11月と続くのであれば、市況と経営に影響大である。

② 大型物件はあるが街場物件が出てこない。大型物件も職人さんがいないので現場が動かない。

③ 物件遅れの影響もあり堅調だったH形鋼が停滞したものの、市中在庫は歯抜けが継続されていると認識している。一方、一般形鋼は低位ではあるが落ち込みなく推移した印象。しかし、市況は局地的に安値が更新されるなど危険水域をはるかに超える状況。輸送費を始めとして下期以降の販売コストは製販共に下がる可能性は低く、マーケット全体が冷静になって行き過ぎた価格に歯止めを掛け、需要に見合った在庫政策に取り組むべきと考える。

異形棒鋼

① 期待した秋需は不発で8月度より悪い月次業績となった。特に末端需要が不振で、先行きが不安な下期入りである。

② 異形棒鋼置き場渡しは価格横這い。9月は動きが悪かったが、10月に入って動きが出てきた。

③ 依然として荷動きは低調なまま推移している。10月に入り需要増に期待しているが期待薄か。販価の現状維持に注力し、営業に努める。

平鋼

① 9月の店売りは相変わらず低位横這いで推移。8月と比べて稼働日がプラスとなっているが、良くなる要素が無い。社内加工は、9月に物流倉庫や病院案件で多少は忙しいが、今年の春ほどではない。10月以降の案件もあるので引き続き情報を取っていく。

② 荷動きは日量で横這い。稼働日の増減でしか変化がない。製造業向けは変わらず、建築向けの端境期で閑散としている。当面はこのままではないか。

軽量形鋼

① 販売価格に関しては鋼材価格上昇分上がり、売上は前年並み以上ではあるが数量、稼働は前年には戻り切れず閑散期継続。年内は横這いと思われる。

② 店売りは引き続き低調のまま推移しているので、先行きは不透明である。しかし、2024年も目前に迫っており運賃、電気代、人件費等の問題を考えると安易な考えの商売はできないと思う。

鋼管

① 9月としては非常に悪い状況であり、日割り出荷も8月より悪化した。

② 首都圏の建築大型物件は端境期であり、上期末の引き取り増もなく、倉出しは低調な9月であった。10月以降に徐々に改善し出荷増の見込みであるが、一方、東京駅八重洲一丁目ビルの鉄骨落下事故(9/19朝)の影響は不透明。幸い、鋼管価格はガス管他も維持されている。

構造用鋼

① 需要は、自動車で一部回復基調にあるが地域格差もあり好調とは言えない状態。建機は、大型は底堅いものの中小型は調整も見受けられる。工作機械は、中国をはじめとする景気停滞で円安ながら輸出は不調。店売りは物量が少なく低迷が続いている。在庫は出荷量が増えず多めの状態。価格はスポットで安値も見受けられるが、価格を下げても量が取れない状況で現状横這い。

磨棒鋼

① 8 月調整の反動増により、自動車向け紐付き品をメインに出荷が一時的に回復。小口店売り品も大口の出荷増につられる形で若干ではあるが増加となった。建産機向けは相変わらず低位で安定している。今後も一進一退の状況が続くものと思われる。

その他

＜鋼材リース＞

①秋口に入り、荷動きはやや上向いて来ているように感じる。

＜鉄スクラップ＞

① 秋需に僅かな期待をしていたが、スクラップ需要も荷動きも低迷が続いている。相場は大きな動き無し。

＜金属表面処理＞

① 紐付き、スポット共に高い状況で推移した。10 月についても造船、橋梁、建築関係の案件が多いため、高操業となりそう。